

## 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	学部	身分	教授
氏名	宮野 勝		
NAME	Miyano Masaru		

## 1. 研究課題

（和文）自由回答のソフトウェア分析と伝統的分析の比較

（英文）A Comparison between Software Analysis and Traditional Analysis of Free Answers

## 2. 研究期間

2020・2021年度 ※2021年度は新型コロナウイルス感染症特例対応により1年間延長

## 3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word 程度）

（和文） 質問紙調査において、方法論的彫琢が進んでいる。定量的方法だけでは限界があり、定性的方法との併用も考えられてきている。ただし両者の併用は容易ではなく、工夫の余地は大きい。

質問紙調査における自由回答のデータは、定性的にも扱えるが、コーディングによって定量的に扱うこともでき、定性・定量の両者のアプローチが可能で、2つのアプローチの併用は相互に補い合って理解を深めることにつながりうる。しかし自由回答の内容分析は、定性的な面と定量的な面の両者のバランスをとることが必ずしも容易ではなく、いずれかに傾きがちである。

本研究では、世論調査の自由回答分析について、どのように定量的方法と定性的方法のバランスをとることができるか、客観的だが内容が薄くなりがちなソフトウェアによる分析と、豊かな内容を取り出しやすいが主観的になりがちな伝統的な内容分析とを比較し、両者の長所を生かす方法について、あらためて考察しようとするものである。

日経リサーチに2021年2月に依頼し、モニターから抽出した18-80歳の約1000人に対するオンライン質問紙調査（自由回答を含む）を実施した。データクリーニングをしつつ、まず、簡単なソフトウェア分析（語彙カウント、単純なトピックモデルなど）を試みたが、簡易な適用では、興味深い事柄は見えてきていない。次に人間（研究者自身）による手動での伝統的な内容分析を通して、再現性を確保するためのコーディング・ルール作りを試みている。

（英文）

We try to find a way to integrate software oriented content analysis with traditional manual one. Our focus is to get rich as well as objective information from free answers in questionnaire surveys. We conducted a Web survey on February 2022 and now we are in the phase of analysis.